



エコアクション21

# 環境活動レポート

活動期間：2017年4月～2018年3月



千葉スバル自動車株式会社

発行日：2018年07月30日

# 【1】会社概要

## (1) 事業所名

千葉スバル自動車株式会社

## (2) 所在地

千葉県千葉市美浜区新港176-2



## (3) 代表者氏名

代表取締役社長 山本 本山

## (4) 環境管理責任者及びEA21事務局連絡先

環境管理責任者	取締役 管理本部本部長	山本 喜久
EA21推進事務局	総務部 部長	中嶋 弘幸
	総務課 課長	根本 雅之
	お客様サポート室 室長	椎名 功
	経理課 課長	坂井 精一
	車両課	千葉 英一郎
	IT担当	宮野 友厚

連絡先 電話 043-243-2292  
FAX 043-203-0120  
URL <http://www.chibasubaru.com/>



## (5) 事業の内容

新車・中古車の販売  
部品・用品の販売  
点検・整備

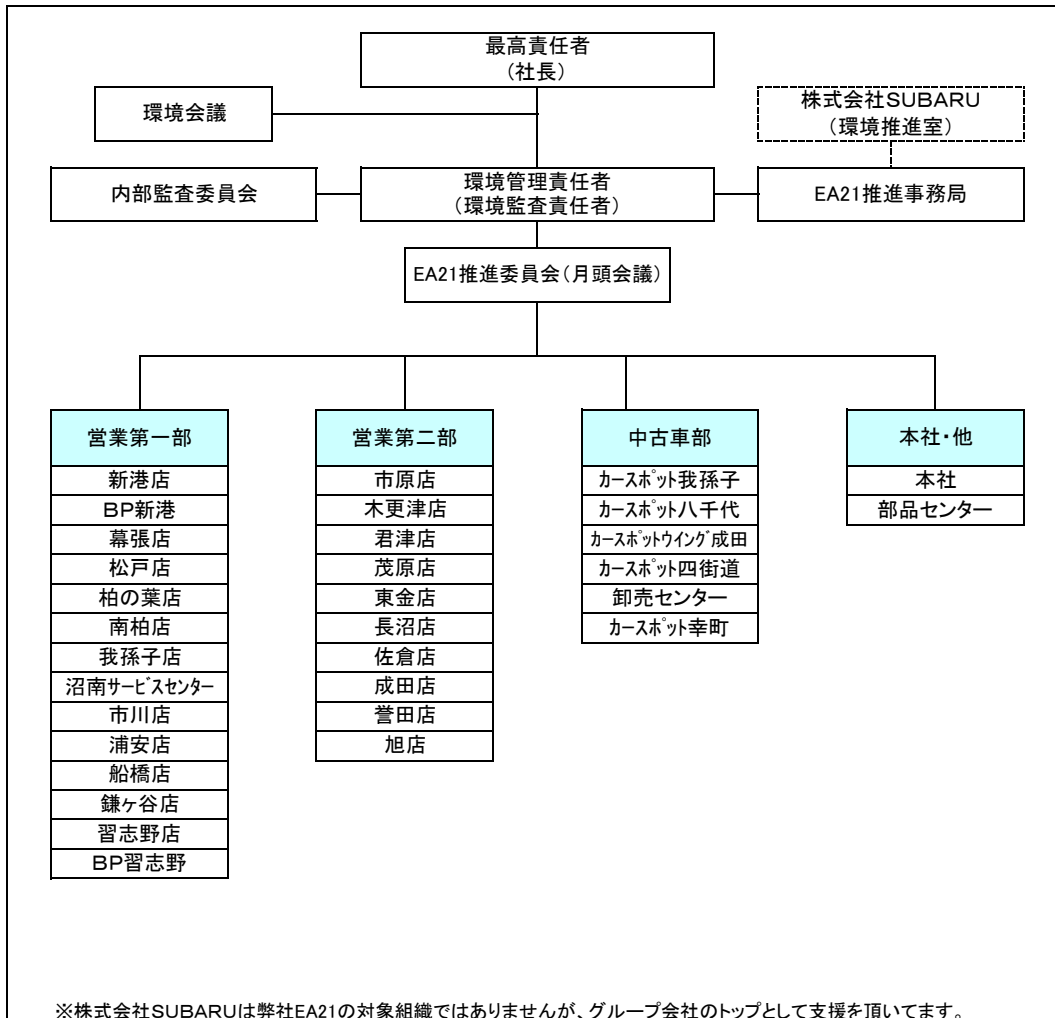
钣金塗装  
自動車リース  
損害保険代理店業務

## (6) 事業の規模

・売上高	311億円 (2017年度)
・新車販売台数	8600台 (2017年度)
・中古車販売台数	6539台 (2017年度)
・従業員数(派遣・パート等含む)	519名 (2018年3月末現在)
・店舗数	本社 1
	新車販売 21
	中古車販売 7
	その他 5

## (7) EA21推進組織図

※ 千葉スバル自動車株式会社は全事業所・全部門にて  
エコアクション21に取り組んでいます。



## (8) EA21対象拠点一覧

千葉スバル自動車は全組織・全活動を対象としてエコアクション21に取り組んでいます。

事業所名	郵便番号	住所	責任者	電話番号	FAX番号	面積(坪)		正社員				非正規	総合計	組織区分
						土地	建物	セールス	メカニック	その他	総数			
1 本社	261-0002	千葉市美浜区新港176-2	中嶋 弘幸	043-243-2292	043-203-0120	2503.4	1014.9			66	66		66	A
2 新港店			景山 直人	043-242-5111	043-238-1350			9	10	7	26	4	30	C
3 B/P新港			小川 信浩		043-238-1351					5	2	7	7	E
4 部品センター			山本 勝	043-242-5161	043-204-7058						9	9	3	12
5 霧張店	262-0032	千葉市花見川区霧張町5-417-354	小林 健策	043-213-3800	043-213-3805	1000.1	458.5	5	5	5	15		15	C
6 松戸店	271-0053	松戸市中根156-1	小野寺 猛	047-363-6111	047-330-1187	1022.3	490.2	6	7	5	18	2	20	C
7 柏の葉店	277-0814	千葉県柏市正連寺406番地3中央134街	渡邊 正洋	04-7133-7231	04-7140-8054	925.3	528.4	9	7	9	25	2	27	C
8 南柏店	277-0856	柏市新富町1-1-11	菊地 猛	04-7147-5900	04-7147-5905	930.2	333.7	5	5	4	14	2	16	C
9 我孫子店	270-1152	我孫子市寿2-25-47	岡本 武司	04-7185-5050	04-7181-1137	316.7	121.2	3	1	4	8	1	9	C
10 沼南サービスセンター	277-0922	柏市大島田127-1	千葉 安徳	04-7193-3700	04-7193-3710	222.6	109.8		5	1	6	1	7	D
11 市川店	272-0015	市川市鬼高4-7-5	伊沢 太郎	047-378-1261	047-320-3241	700.0	332.3	7	7	5	19	3	22	C
12 浦安店	279-0002	浦安市北栄4-20-8	我妻 貴臣	047-353-2111	047-390-6450	435.3	260.9	5	6	4	15	2	17	C
13 船橋店	273-0001	船橋市市場2-9-19	神谷 剛	047-423-6631	047-426-8320	656.7	196.9	8	6	5	19	2	21	C
14 鎌ヶ谷店	273-0115	鎌ヶ谷市東道辺5-9-19	松崎 陽祐	047-442-1211	047-498-5055	1068.0	524.0	5	6	5	16	1	17	C
15 習志野店	275-0001	習志野市東習志野6-16-43	谷 勇輝	047-473-2171	047-470-1455	999.2	481.3	7	7	8	22	2	24	C
16 B/P習志野			仲野 正浩						5	2	7	7	E	
17 市原店	290-0050	市原市更級2-3-1	下川 久幸	0436-21-7611	0436-20-1121	1324.0	595.0	8	6	5	19	1	20	C
18 木更津店	292-0014	木更津市高柳952	大塚 智史	0438-23-0321	0438-20-1039	986.0	193.6	9	6	5	20	1	21	C
19 君津店	299-1163	君津市笠師4-2-7	眞坂 貴吉	0439-55-7200	0439-50-1288	485.4	137.0	4	5	3	12	1	13	C
20 茂原店	297-0074	茂原市小林1732	上田 哲也	0475-22-5271	0475-20-1090	632.2	209.4	5	4	5	14	1	15	C
21 東金店	289-1327	山武市姫島141-1	高橋 康	0475-82-7221	0475-80-1005	591.4	167.1	5	5	4	14	1	15	C
22 長沼店	263-0001	千葉市稲毛区長沼原町725	長野 正幸	043-250-3791	043-298-9045	966.4	342.7	6	4	5	15	4	19	C
23 佐倉店	285-0837	佐倉市王子台5-4-1	荒川 幸一	043-462-5500	043-460-1575	384.5	202.6	6	5	6	17	1	18	C
24 成田店	286-0046	成田市飯仲11-31	玉垣 貴宏	0476-22-6811	0476-20-1043	1032.3	210.5	7	8	6	21	2	23	C
25 誉田店	266-0005	千葉市緑区誉田町1-392-3	名塚 勝芳	043-292-6601	043-226-9032	429.1	178.0	4	5	5	14	1	15	C
26 旭店	289-2535	旭市川口3494-6	成毛 健一	0479-64-2111	0479-60-1031	304.7	153.3	2	2	4	8		8	C
27 カースポット我孫子	270-1177	我孫子市柴崎28-3	福土 雅聡	04-7183-0611	04-7183-7282	1004.3	60.5	4	2	2	8		8	C
29 カースポット八千代	276-0037	八千代市高津東4-7-11	栗山 浩一	047-487-0486	047-487-0520	608.0	67.6	3	1	1	5	1	6	C
30 カースポットウイング成田	286-0029	成田市ウイング土屋113	廣田 芳和	0476-22-8810	0476-22-8911	461.9	69.3	3	2	1	6		6	C
31 カースポット四街道	284-0041	四街道市上野346-14	大関 貴弘	0443-433-8500	043-433-8501	2330.8	23.5	3			3		3	B
32 卸売センター			瀬澤 昌吾	043-433-8505	043-433-8501			17.2	2	5	7	1	8	A
33 カースポット幸町	261-0001	千葉市美浜区幸町2-20-32	小林 満	043-243-1321	043-243-2625	752.9	176.3	4			4		4	B
								144	137	198	479	40	519	

※社員数は2018年3月末現在

組織区分の意味

- A=オフィス業務(事務所業務)
- B=オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)
- C=オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)+整備業務
- D=オフィス業務+整備業務
- E=オフィス業務+钣金塗装

## (9)「認証登録の範囲(組織・活動)

認証・登録番号:0006212  
 認証・登録年月日:2010年11月18日  
 認証・登録事業者名:千葉スバル自動車株式会社  
 対象事業所名:(8)「EA21対象拠点一覧」を参照  
 所在地:千葉県千葉市美浜区新港176-2  
 事業活動内容:新車・中古車の販売、部品・用品の販売、点検・整備、  
 钣金塗装、自動車リース、損害保険代理店業務



## 【2】環境方針

### 《基本理念》

当社はスバル車の販売やサービス活動の環境影響を常に考え、車が人や社会や自然とよく調和するよう、環境保全活動を進めます。

### 《基本方針》

この理念のもと、当社が行なう自動車および部品の販売、整備、修理、保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO<sub>2</sub>削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行います。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
3. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 特に次の環境保全の重要項目に対して、環境目標を設定し取組み、必要があれば見直しを行います。
  - ①省エネルギーの推進（電力使用量、燃料使用量）
  - ②省資源（水使用量、紙使用量）
  - ③廃棄物の排出抑制と適正処理（一般廃棄物及び産業廃棄物排出量削減）
  - ④化学物質管理の強化（PRTR法関連、VOC対策）
  - ⑤グリーン購入の推進
  - ⑥環境に配慮した車の販売、サービスの提供
  - ⑦拠点周辺の清掃を積極的に行ない、地域の環境改善に貢献する
5. この環境方針を全従業員に周知し、教育活動を推進します。



平成22年4月1日制定

（平成28年4月1日改訂）

千葉スバル自動車株式会社

代表取締役社長 山本 本山

### 【3】環境目標及びその実績

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量の少ない自然エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

【評価】 ◎110%以上達成、○100%以上達成、△95%以上で少々未達、×94%以下で未達】

項目	年度	単位	2016年度実績 (基準年度)	2016年度目標 (前年度)	2017年度目標	2017年度実績	評価 [目標達成率]	2018年度目標 (次年度)	
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kWh	2,736,126	2,445,270	2,736,126	2,816,807	△	2,736,126	
	(CO2排出量)	(kg-CO2)	(71,139)	(63,577)	(71,139)	(112,672)	97.1%	(109,445)	
	燃料	ガソリン	L	187,090	221,053	185,219	180,396	○	185,219
		(CO2排出量)	(kg-CO2)	(434,359)	(513,210)	(430,016)	(418,818)	102.7%	(430,016)
		灯油	L	1,838	2,841	1,819	1,424	◎	1,819
		(CO2排出量)	(kg-CO2)	(4,580)	(7,080)	(4,534)	(3,549)	127.8%	(4,534)
		軽油	L	31,345	33,440	31,031	30,760	○	31,031
(CO2排出量)		(kg-CO2)	(82,260)	(87,758)	(81,437)	(80,725)	100.9%	(81,437)	
LPG	kg	21,591	23,560	21,375	27,179	×	21,375		
(CO2排出量)	(kg-CO2)	(64,815)	(70,726)	(64,166)	(81,590)	78.6%	(64,166)		
都市ガス	m <sup>3</sup>	190,933	130,507	190,933	213,328	×	190,933		
(CO2排出量)	(kg-CO2)	(402,569)	(275,165)	(402,569)	(449,787)	89.5%	(402,569)		
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】			kg-CO2	1,059,721	953,938	1,053,861	×	1,092,166	
							91.9%		
②水使用量の削減		m <sup>3</sup>	20,648	20,945	20,442	21,451	△	20,442	
							95.3%		
③産業廃棄物排出量の削減		t	658.00	602.97	658.00	601.34	○	658	
							109.4%		
④化学物質管理の推進 (PRTR法、VOC規制対応)			使用量管理	使用量管理	使用量管理	使用量管理	○	使用量管理	
⑤グリーン購入の推進 (事務用品、コピー用紙)		%	100	100	100	100	○	100	
							100.0%		
⑥ 環境業配におおける 環境業配におおける	エコカー販売比率向上(*)	%	97.8	97.2	98	96.9	△	98	
							98.9%		
	エコタイヤ販売促進 ※新車装着含まず	本数	12,005	16,696	17,000	14,772	×	17,000	
							86.9%		
運転支援システムEyeSight 搭載車の販売促進	台数	5,836	4,456	6,359	6,836	○	6,359		
						107.5%			
エンジンオイルライン洗浄システム スラッジナイザーの販売促進	台数	5718	—	—	6,123	○	—		
						119.2%			
⑦紙(コピー用紙)使用量削減		枚	4,829,000	3,809,675	4,829,000	4,051,000	◎	4,829,000	

※2017年度以降の環境目標(中期3ヵ年)は、2016年度の実績値を基準年度とし、2017年度1%減、2018年度2%減、2019年度3%減と決めました。  
但し、店舗建替えや業務拡大により削減が見込めない電気・都市ガス・紙使用量は、前年を超えないよう目標を決めました。

#### 【CO2排出係数】

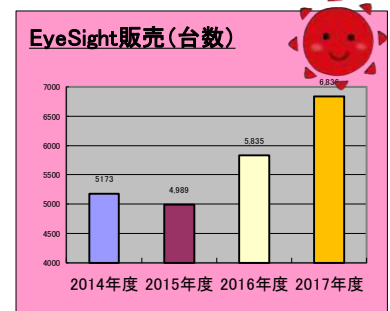
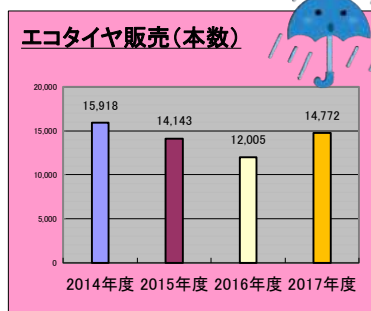
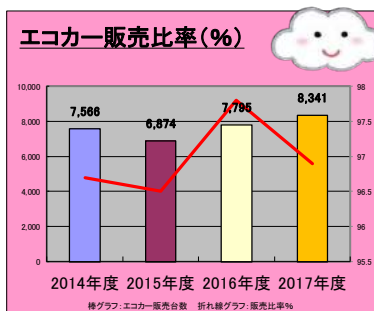
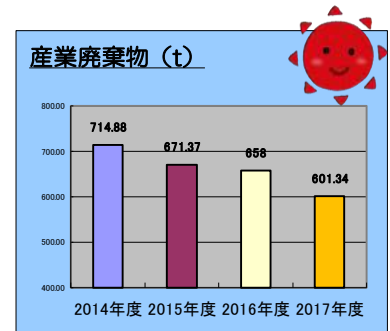
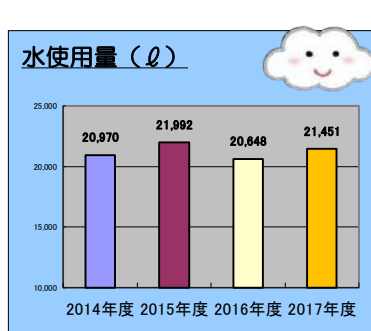
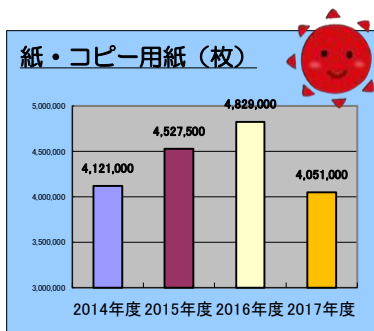
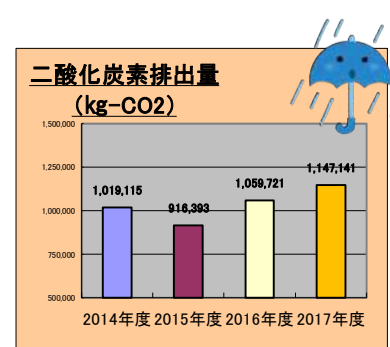
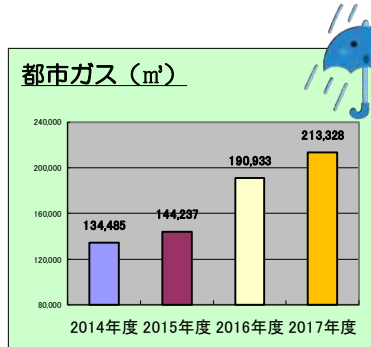
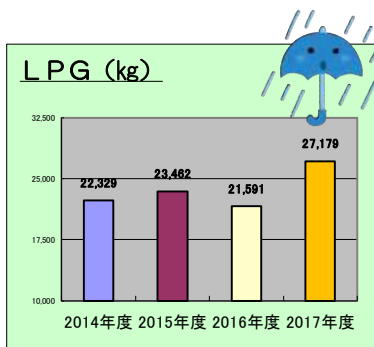
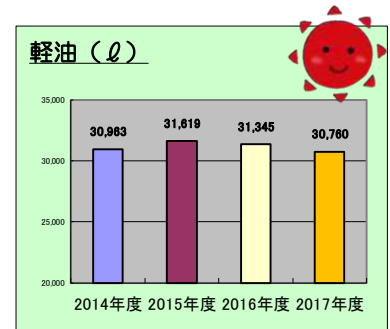
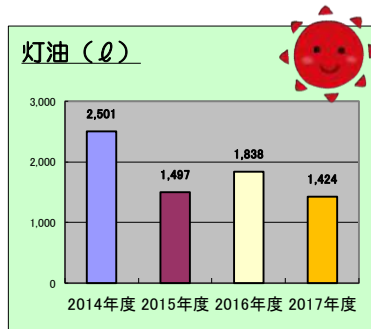
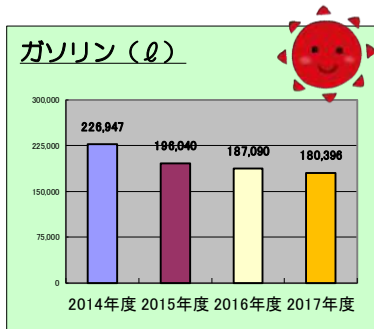
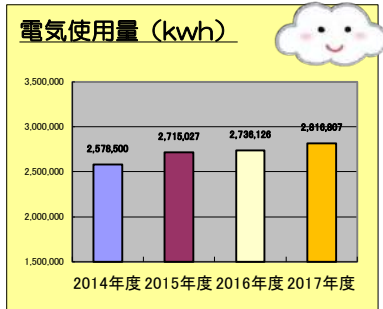
電気 : 0.04kg-CO2/kWh ※電気事業者: プレミアムグリーンパワー株式会社 <平成28年度排出係数>  
 ガソリン : 2.32166kg-CO2/L  
 灯油 : 2.49193kg-CO2/L  
 軽油 : 2.62434kg-CO2/L  
 LPG : 3.00196kg-CO2/kg  
 都市ガス : 2.10843kg-CO2/m<sup>3</sup>

○ 2014年10月より、エンジンオイルライン洗浄システム『スラッジナイザー』を導入しました。  
 ・エンジンオイルの性能を最大限に引き出す事で燃費の向上(ガソリン使用の削減)に繋がります。  
**2017年度実績: 6,123台** (前年比107.8%)

○ 運転支援システム『EyeSight』装着車の販売を促進し交通事故削減に取り組みました。  
 ・交通事故を減らす事で産業廃棄物の削減及び钣金修理に関わるCO2排出の削減に繋がります。  
**2017年度実績6,836台** (目標: 6,359台) **達成率107.5%**



# 【4】環境活動の成果





## 【5】環境活動計画の内容と取組結果の評価 及び 今後の取組

評価:◎目標達成・活動実施 ○目標未達成・活動実施 ×目標未達成・活動予定以下

項目	活動内容	評価	評価及び今後の取組
①二酸化炭素排出量の削減	1) CO2排出量の少ない自然エネルギー発電会社から購入	○	・排出係数の変更により目標値を超えた。 排出係数自体は他社よりも少ない為継続する。
	電気使用量の削減 ・節電への取組強化(意識向上)の継続 ・冷暖房の室温管理 ・クールビズ期間の拡大(6月～9月⇒5月～10月)	○ ○ ○ ○	・市場措置による業務量増加により目標未達成 ・節電の啓蒙強化や照明LED化の拡大等図る
	燃料使用量の削減 1) 効率的な燃料の使用 2) エコ運転の推進(安全運転取組み啓蒙活動) 3) 冷暖房の室温管理(ガスエアコン対策) 4) クールビズ期間の拡大(ガスエアコン対策)	○ ◎ ○ ○	・都市ガス、LPG未達成 ・新店舗建替拡張による使用量大幅増加(都市ガス) ・労働環境改善の為、整備工場のガス暖房を設置。 冬季の使用量が増大した。(都市ガス・LPG) 適切な利用啓蒙を行う。
②水使用量の削減	1) オフィスでの節水活動の推進 2) 車両洗車時の節水	○ ○	・入庫車両及び納車車両増の為目標未達。 ・年度の途中で整備入庫車両の洗車基準を見直し、後半は前年を下回る実績となった。
③産業廃棄物の削減	1) 廃棄品の分別再資源化の強化 2) 自動車廃棄部品のリサイクル化、有価化の促進 (バンパー、バッテリー、他) 3) 排出量削減の取組	◎ ◎ ◎	・汚泥の回収サイクルを見直ししたため、 排出量削減となった。 ・車整備での排出物、有価化への分別を継続する。
④化学物質の管理推進	1) PRTR対象化学物質の使用量管理	○	・法届出対象でないが、一覧表にて管理
⑤グリーン購入の推進	1) 事務用品(コピー用紙、ボールペン等)のグリーン対象の優先的購入	◎	・コピー用紙は100%実施継続で管理 ・その他の事務用品もグリーン対象を優先購入
⑥事業における環境配慮	エコカー販売比率向上	○	・特殊車種除いて殆どエコカーであるが 今後ともエコカー販売を強力に進めて行く
	エコタイヤ販売促進	○	・販売機会減少により目標未達となった。 お客様への提案を着実に実施していく。
	運転支援システムEyeSight 搭載車の販売促進	◎	・搭載車両の拡大及び拡販施策により目標達成。 引き続きお客様へのご代替え提案を実施する。
	エンジンオイルライン洗浄システム スラッジナイザーの販売促進	◎	・数値目標の設定は無いが、前年を超える実績となった。引き続き提案活動を進める。
⑦紙(コピー用紙)使用量削減	1) 電子文書会議(iPad導入) 2) ITやデータによる管理推進 3) コピー用紙の裏紙使用推進	◎ ◎ ◎	・ペーパーレス会議開催を継続 ・ファイルサーバ、グループウェアの活用継続 ・使用方法の啓蒙の結果大幅に削減できた。 ・複合機のスキャン機能活用を継続する。

### 【次年度の取組予定】

- 次年度(2018年)環境目標は、2017年度に作成した中期計画に基づき設定する。
- 新規移転オープンや拠点リニューアルの際、積極的に省エネ設備を導入する。



「労働環境改善例」  
← ガス遠赤ヒーター導入(木更津店)

大型扇風機設置(習志野店) →





## 【6】環境改善活動・社会貢献活動①

### 各自動車販売・整備拠点での環境改善・社会貢献活動の推進



2月10日にアリオ市原において出張展示会を実施いたしました。多数のお客様にご来場いただき、アイサイトに搭載された新機能「後退時自動ブレーキ」を含めた予防安全性能を体感していただきました。



メーカー主催で開催していた高速体感試乗を、当社独自に開催。多くのお客様に、アイサイトの先進安全性能を体感していただきました。

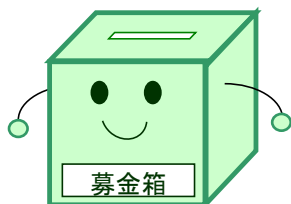


来店されるお客様からも多くのキャップを頂いています。



地球温暖化防止の一環として、環境省のクールビズ期間を延長し、10月末まで実施いたしました。

全拠点にエコキャップ回収BOXを設置。ペットボトルキャップのリサイクル化を推進しています。キャップ800個でポリオワクチン1人分が購入でき、また6.2kgのCO2が削減できます。NPO法人エコキャップ推進協会に104,369個のキャップを送付しました。(2017年4月～2018年3月)



従業員より募金を集め、「あしなが育英会」に118,000円寄付致しました。

## 【6】環境改善活動・社会貢献活動②

各自動車販売・整備拠点での環境改善・社会貢献活動の推進

カースポット幸町



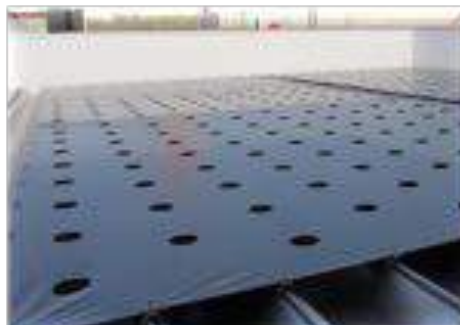
新店舗オープンでお客様も大満足頂いています！



2017年度、カースポット幸町が建替新築オープンしました。



カースポット幸町には全館LED照明を採用し、通常の蛍光灯と比べ40%~50%の消費電力を削減します。



カースポット幸町には屋根の表面に「冷えルフ」を採用し、日射による温度上昇を抑制します。屋根裏温度で5~10℃、室内温度で2~3℃



旧本社建屋を取り壊し、新店舗に立替を実施。必要十分な店舗スペースとし、空調設備の更新と相まって効率が改善しました。



中古車販売拠点に、授乳室を初めて導入いたしました。小さなお子様をお連れのお客様にも、気軽にご来店いただくと好評をいただきました

## 【7】環境関連法規等の遵守状況の確認、 及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

### (1) 適用となる主な環境関連法規(遵守評価 2017.04.26)

主な適用法規	要求事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置等)	○
浄化槽法	浄化槽設置の届出、年1回の定期検査の実施	○
下水道法	排水施設の設置義務、特定施設の届出	○
消防法	少量危険物貯蔵所の届出	○
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正管理	○
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理、廃棄物処理業者との委託契約、 廃棄物の表示・保管管理、マニフェストの集計・報告	○
騒音規制法	特定施設の届出 (自動車自動洗浄装置、コンプレッサー等)	○
振動規制法	特定施設の届出 (自動車自動洗浄装置、コンプレッサー等)	○
化管法(PRTR法)	特定化学物質の排出量・移動量の把握と記録、 基準値以上の取扱量の場合に行政に報告	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	○
自動車NO <sub>x</sub> 、PM法	自動車排出NO <sub>x</sub> 及びPM排出抑制に必要な措置、届出	○
<b>以下は千葉県、各自治体の条例</b>		
各市環境保全条例施行規則	特定施設「圧縮機」の規制対象出力(上乗せ条例)	○
千葉県ディーゼル条例	特定自動車の粒子状物質減少装置の装着	○

### (2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。

## 【8】代表者による評価と見直し

本来業務の販売が好調に推移したことにより、今後も堅調な整備入庫による業務量増加が見込まれている。また、労働環境改善の観点から、店舗更新の際は工場内にも冷暖房を増設している状況である。このことから、今後も電気・ガスの使用量は増加の見込みではあるが、その中でも店舗更新時により環境に配慮した設備の選定をすることで増加分を吸収し、適切な使用方法を啓蒙して、社員一人一人が実行できる手段を示すこと。